

実質化された人・農地プラン（金川地区）

市町村名	対象地区名	作成年月日	直近の更新年月日
朝倉市	金川地区	令和3年3月31日	令和4年8月31日

1 対象地区の現状

1) 地区内の耕地面積（市農地台帳より）	412.9 ha
2) アンケートに回答した地区内の農業者の耕作面積合計	302.8 ha
3) 地区内の75歳以上の農業者の耕作面積合計（市農地台帳より）	57.7 ha…A
i) Aのうち、アンケートに回答した面積合計	35.4 ha…B
① Bのうち、後継者がいる 面積合計	21.7 ha…C
② Bのうち、後継者がいない 面積合計	13.2 ha…D
ii) Aのうち、後継者について不明の面積合計（A-C-D）	22.8 ha
4) 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積合計	56.2 ha…E
（備考）※貸付け等の意向が確認された農地は、441筆、45.6haとなっている。	

2 対象地区の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・後継者がいない。 ・法人においては、農地集積の目処が立てば人を雇うのは可能であるが、目処がたらず耕作面積が確定しないため人を雇えない。 ・担い手が少ない中で新規に農業を始める人は、施設野菜など高収益作物を作る場合が多く、米麦の担い手が少ない。 ・機械や資材が高額であり、農産物の価格は上がらないためもうからない。小規模や兼業では利益にならない。 ・生産組合も人員不足であり、高齢化してきており組合の継続が難しくなっている。
--

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場整備地を中心に認定農業者及び生産組合に集約化していく。
--

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

<ul style="list-style-type: none"> ・金川生産組合と大規模経営及び施設園芸の認定農業者により、地域全体をカバーできており、継続して農地利用を行っていく。 ・畦畔撤去による大ほ場化を検討。 ・スマート農業による省力化を検討。

5 今後の地域の中心となる経営体（別紙）